

街の移ろい 一冊に

港南区

郷土史愛好家らが写真集

第2次世界大戦時の横浜大空襲(1945年)を免れ、戦前からの風景が高度経済成長時まで色濃く残っていた横浜市港南区周辺。明治創立の4小学校に保管されていた写真を、区内の郷土史愛好家らが手分けしてデジタル化、作成した写真集「こうなんの歴史アルバム」明治創立の学舎に残された写真物語(港南歴史協議会編)が刊行された。のどかな農村地帯が戦後、大規模な宅地造成によって姿を変えていく軌跡を、庶民の写真と挿話によって描いた一冊となっている。

(宮島 真希子)

「歴史アルバム」は、A4変型判でモノクロ98頁(千円)。「横浜開港150周年」「港南区制40周年」だった2009年に、区内の13の郷土史団体でつくる「港南歴史協議会」(馬場久雄代表)が記念企画として作成した。

1872(明治5)年の新しい学校制度導入後、同時期に創立した日野、永野、日下、桜岡の4小学校の郷土資料室などに保管されていた写真が主に掲載されている。

これらの古い写真は散逸や劣化を防ぐため、1枚ずつ丁寧にデジタル化されて

景が一変した。変化の移り変わりが比較できる「定点地」での撮影写真も、区民から提供された。

同協議会代表の馬場さんは「この町で生きてきた人たちの物語や風景の変遷を知ること、若い世代に地域への愛着を深めてもらえたら」と話している。「歴史アルバム」についての問い合わせは、同協議会事務局の茅野真一さん☎045(841)6773。

また同協議会は、発刊を記念し、5月29日午後2時から港南図書館で座談会「こうなんの昔を語る」を開催する。申し込み・問い合わせは同図書館☎045(841)5577。

いる。同協議会メンバーが約3年前からボランティアで続けてきた。これまでに掲載分を含む約500枚の写真がデジタルデータになっているという。

庶民が撮影した写真には、当時の景観や風俗が写り込んでいる。撮影時にありふれていた光景も、長い年月を経過すると「なくなってしまう」た町の原風景を思い返す貴重な「郷土史の証人」になるという。

特に、港南区は1960年代初めから「野庭団地」などベッドタウンとなる大型団地の開発で山が崩され、あちこちで短期間に風



こうなんの歴史アルバム

明治創立の学舎に残された写真物語

大昭和印刷

港南区の歴史を市民の写真でたどった「こうなんの歴史アルバム」